

八学大 初戦突破へ闘志



皇后杯バスケきょう開幕

バーは初舞台での挑戦に闘志を燃やしている。代表決定戦には青森県内6地区の予選を勝ち抜いた16チームが出場。同大はトーナメント戦を勝ち抜き、見事初の県代表の座をつかんだ。1次ラウンドは23日までで、同大は21日の1回戦で千葉県代表の社会人チームと対戦する。

小林市長は1回戦の相手が社会人チームであることを踏まえ、「相手は社会人で強い相手だが、県代表として頑張ってきてほしい」とエールを送った。

懇談後の取材に、東大野副主将は「練習してきたことに自信を持って戦いたい」、西村副主将は「若さを生かして走り勝ちたい」と話していた。

（林泰輔）

7月20、21日に青森市で開かれた皇后杯全日本バスケットボール選手権青森県代表決定戦（日本バスケットボール協会、県バスケットボール協会主催）で、八戸学院大女子バスケットボール部が初優勝を果たし、9月21日から千葉県で開催される本大会1次ラウンドへの出場を決めた。メンバー

小林真市長（右から2人目）に1次ラウンドに向けた意気込みを語った女子バスケットボール部のメンバー

小笠原清主将（八戸市出身）と、東大野聖（洋野町出身）、西村葉月（弘前市出身）両副主将、橘勇佑ヘッドコーチらがこのほど、八戸市庁に小林真市長を訪ね、初優勝と本大会出場を報告。小笠原主将は「目標は初戦突破」と掲げ、「学生らしく運動量を生かし、チャレンジ精神を持って戦いたい」と意気込みを語った。